

舞踊
(バレエ、現代舞踊等)

- ◆ **公益財団法人新国立劇場運営財団**
- ◆ **一般財団法人セガサミー文化芸術財団**
- ◆ **公益財団法人日本舞台芸術振興会**
(東京バレエ団)

目的・目標

バレエの殿堂であるロンドンのロイヤル・オペラ・ハウスで、新国立劇場舞踊芸術監督・吉田都の演出による「ジゼル」を上演する。世界トップレベルの劇場での上演経験を通して新国立劇場バレエ団ダンサーの育成を行うことで、国際的競争力を持つダンサーを育て、日本のバレエの国際的プレゼンスの向上を図る。

概要

新国立劇場バレエ団ダンサーを対象とし、吉田都芸術監督をはじめとした指導者陣による育成プログラムを実施。新国立劇場初の海外自主公演であるロイヤル・オペラ・ハウスでの上演およびその前後の国内公演を通して世界に比肩し得るダンサーを育成する。同時に、海外での広報活動や公演の記録映像を使ったプロモーションを展開する。

(分野・ジャンル)

舞台芸術(舞踊)

(渡航先の国・地域)

・ロンドン(英国)(2025年)

(国内外の連携・協力体制)

・ロイヤル・オペラ・ハウス、
Bolton&Quinn、AKA他

3年目までの取組

1年目はロイヤル・オペラ・ハウスとの連携を深め、プロジェクトの基礎を固めるとともに、ロンドン公演に向けた実践的なリハーサルを開始する。2年目は4月に新国立劇場公演、7月にロンドン公演を実施する。ここで得られたフィードバックを基にダンサーのトレーニングプロセスを見直し、より育成効果の高い方法を模索する。3年目には国内で凱旋公演を行い、ロンドン公演の成果を国内へ還元する。



5年目までの取組



3年目までの取り組みの次のステップとして、再度の海外公演を検討する。全幕物だけでなく、小規模なプロダクションでの海外公演や、フェスティバルへの参加なども含めて、ダンサーが海外での経験を重ねて国際水準の技術と表現力をさらに高めることを目指す。同時に、日本のバレエの国際的認知度を向上させ、国際プレゼンスの強化を図る。

中核となるクリエイターやアドバイザー

・吉田都

新国立劇場舞踊芸術監督。1995年より2010年まで英国ロイヤルバレエにて最高位プリンシパルとして活躍。04年よりユネスコ平和芸術家、12年より国連UNHCR協会国連難民親善アーティスト。07年大英帝国勲章(OBE)受賞、17年文化功労者、24年日本芸術院会員。



育成対象者：70人

新国立劇場バレエ団ダンサー他約70名を育成対象とする。国内トップクラスのダンサーを海外公演を通してさらに育成することによってそれぞれの国際的競争力を高める。

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等にて登用される若手クリエイター等の数

70人

国内外の団体・企業等との連携数
(連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)

3件

プロジェクトに関わった海外アーティスト・キュレーター等の数

3人

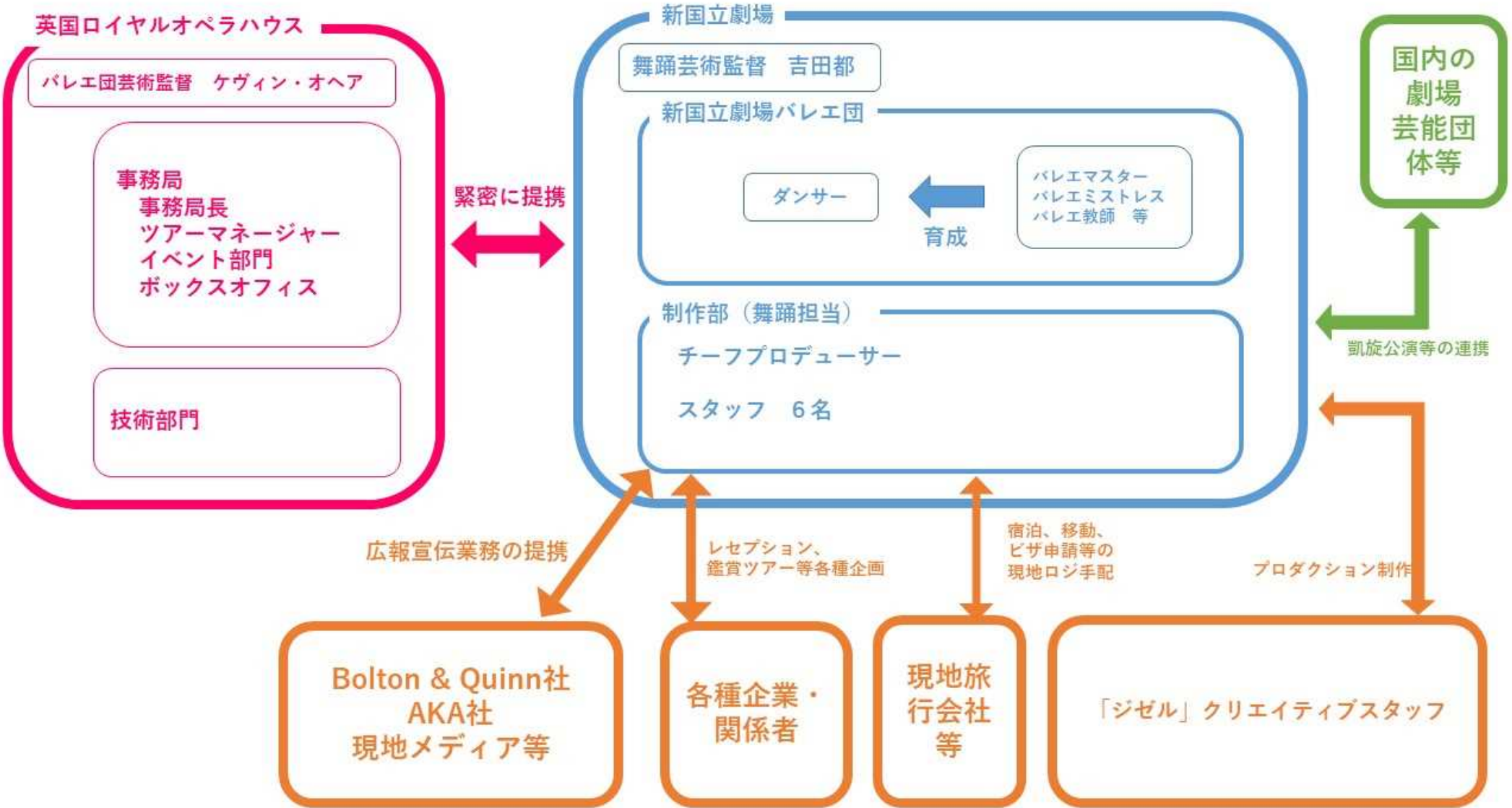
国内外で展開される公演・展示等の数

14回

国内外で展開される公演・展示等の入場者数

20,608人

【補足資料】



世界に羽ばたく次世代クリエイターのための Dance Base Yokohama国際ダンスプロジェクト“Wings”

(実施団体:一般財団法人セガサミー文化芸術財団)

目的・目標

国際的に高い技術水準を誇る日本のクリエイターが、作品創作や海外ツアーの土壌を整えることで国際的なプレゼンスを向上することを目的とする。また海外劇場や芸術祭との繋がりを強め、優れた作品と海外公演のマッチングを担う日本初のダンス・エージェンツ的役割となることを目指す。

概要

コンセプト・構想を固めるためのリサーチやWS、実験的なショーケースなどを実施しながら丁寧な作品創作を行う。国内劇場での公演、リクリエーションと再演を重ねると共に、国内外の見本市等で創作作品の紹介や劇場とのマッチングを行い、海外の劇場やフェスティバルでの公演を実現させることで、日本の優れた作品やクリエイターの認知度向上、文化芸術の活性化に寄与する。

(分野・ジャンル)

・舞踊

(渡航先の国・地域)

・エディンバラ(スコットランド)(2026年)

(国内外の連携・協力体制)

・愛知県芸術劇場(愛知県)ほか

・Dance Base (スコットランド)ほか

3年目までの取組

Dance Base Yokohama所属のアーティストやダンサーも起用し、作品コンセプト・構想を固めるためのワークショップやリサーチ、実験的なショーケースを行いながら丁寧な作品創作を行う。日本全国各地の連携劇場での公演・再演を重ねながら、国内外で開催される見本市等で作品を紹介し、3年目にはエディンバラ・フリンジ・フェスティバルを中心に、海外劇場やフェスティバルでの公演を行うことを目標とする。



柿崎麻莉子『Can't-Sleeper』©Naoshi HATORI

5年目までの取組



海外公演での批評をもとに、再演に向けた作品のリクリエーション、オファーのあった劇場や芸術祭の規模に合わせた新作づくりを行う。海外公演だけではなく、引き続き国内での上演も重ねながら、作品と劇場のマッチング制度の確立に向けて国内外の劇場や、各芸術祭プロデューサー等との協定を結んでいく。

5年目までにさらに継続的に公演を実施することで作品や振付家の認知度を向上し、国内外での定期的な公演開催が可能になることを目的とする。

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等までに登用される若手クリエイター等の数	10人
国内外の団体・企業等との連携数 (連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	8件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	10人
国内外で展開される公演・展示等の数	25回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	3,000人

中核となるクリエイターやアドバイザー

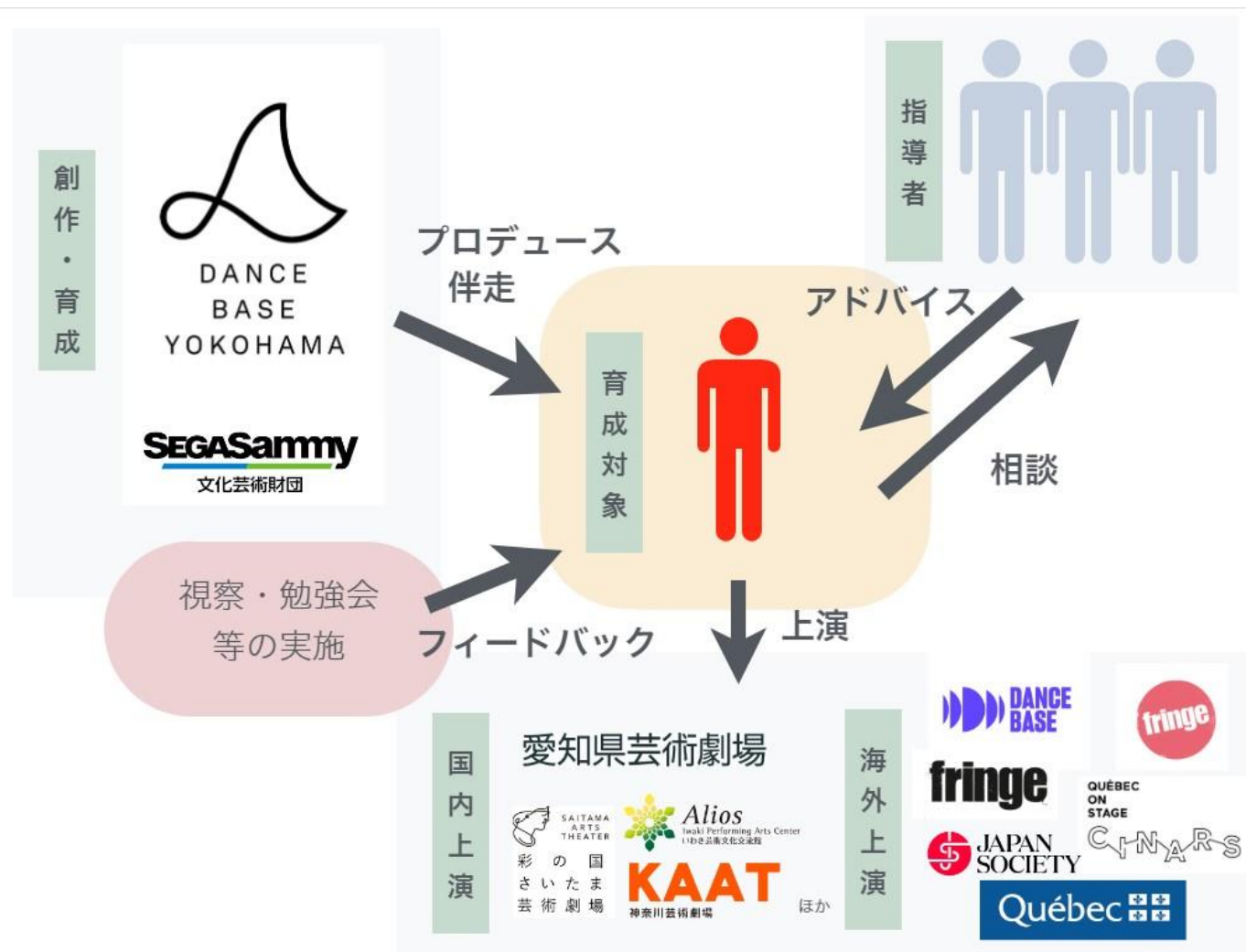
唐津 絵理：愛知県芸術劇場 芸術監督

1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。
2010年～16年あいちトリエンナーレキュレーター、2014年より愛知県芸術劇場のプロデューサーを経て4月より現職。2020年、DaBY設立を機に、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティストやスタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等に積極的に関わる。
令和4年度(第73回)芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)受賞。



育成対象者：11人

ダンサーやパフォーマーとして国内外で活躍したのち、日本で作品創作を始めたばかりの若いアーティスト・振付家7名、そして舞台制作に携わってまだ数年程度の若い制作者・クリエイター4名を選定した。



【国内上演】

国内の劇場と連携し、創作作品を上演

- ・愛知県芸術劇場（愛知県）
- ・KAAT神奈川芸術劇場（神奈川県）
- ・いわき芸術文化交流館（福島県）
- ・彩の国さいたま芸術劇場（埼玉県）

【海外上演】

海外のフェスティバル、およびその運営団体、上演会場等と連携し、創作作品を上演

＜スコットランド・エディンバラ＞

- ・Dance Base（ダンスハウス/プログラム連携・上演）
- ・Edinburgh Festival Fringe（舞台芸術フェスティバル）

＜アメリカ・ニューヨーク＞

- ・Japan Society（日米文化交流団体／連携・公演実施）

＜カナダ・モントリオール＞

- ・CINARS（舞台芸術見本市）
- ・ケベック州政府（CINARS支援）

目的・目標

本プロジェクトを通じて、若手ダンサー・若手スタッフの育成を加速させることで、新たに「世界五大バレエ団」の一角を占めることを長期目標として掲げる。これまで日本のバレエはダンサーのスキルの高さから個人の海外進出は進んでいるが、総合芸術としての海外進出は進んでいないため、以下で記載する「かぐや姫」を活用しながら日本のバレエの世界におけるプレゼンス向上に努める。

概要

1年目は海外指導者の招聘等を通じて、公演を通じた若手育成を強化する。2年目には、海外公演を通じたOJTにより海外公演開催のノウハウ継承や継続的な海外視察によるコネクションの強化を通じた若手スタッフ・ダンサーの育成を行う。3年目は3年間の集大成として、海外劇場での「かぐや姫」（全幕）の初演を若手クリエイター中心に開催し、若手の評価につなげる。

3年目までの取組

日本のバレエを総合芸術として海外展開するにあたっては、日本ならではのバレエ作品の存在が不可欠である。この点、オールジャパンチームで制作し2023年に全幕初演した「かぐや姫」は、日本らしさをふんだんに盛り込みつつ、テーマの普遍性で世界展開にふさわしい。話題性をもって世界初演ができるよう準備を重ね、2026年の海外初演を目指すとともに、この過程を通じて若手クリエイター等の指導を加速させる。



5年目までの取組



2026年の「かぐや姫」の世界初演を成功させることによって、欧州における日本のバレエのプレゼンスを一定程度引き上げることができると考えているため、第2期についてはこの話題をベースに欧州における若手クリエイター等の海外評価向上のためのプロモーションを続ける。また、これまで海外公演を実施していなかった新たな地域での公演を通じて世界展開を継続し、公演を通じた実践と指導者招聘の二軸で育成強化に努める。

中核となるクリエイターやアドバイザー

【中核となるアドバイザー】
高橋典夫（当財団専務理事）

- ・ 1976年に当財団の前身に参加して以来当財団業務に幅広く従事。
- ・ 2003年からは事務局長に就任。故・佐々木忠次とともに世界中の劇場関係者とコネクションを持つ。
- ・ 2004年より当財団理事、2016年専務理事に就任し、「かぐや姫」初演にも事務局代表として尽力。

（分野・ジャンル）
・舞踊（バレエ）

（渡航先の国・地域）

・フランス（2026年度・予定）

（国内外の連携・協力体制）

・海外歌劇場（パリ・オペラ座ほか）・海外アーティスト（ジル・ロマン、ジル・イゾアールほか）・各国大使館とのネットワーク

成果目標（見込）

目標値

企画段階から海外公演等までに登用される若手クリエイター等の数

25人

国内外の団体・企業等との連携数（連携団体数、事業提携数、拠点形成数など）

27件

プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数

6人

国内外で展開される公演・展示等の数

30回

国内外で展開される公演・展示等の入場者数

43,156人

育成対象者：25人

- ・ダンサー：様々な階級のダンサーが集まって作品を構成しているため、育成カテゴリーを4つに分けて相応しいダンサーの人選を行った。
- ・スタッフ：業務経験が1年以上あり、スキル・スタンス双方の観点で今後中核を担う者として推薦があった者を対象とする。

【補足資料】

